

■都市課題

都市防犯力・防災力の向上
広域サービスの展開
加古川駅周辺の賑わい創出

■解決方策

- ①広域見守りサービス実証・スキーム構築
- ②センシング技術によるスマートプランニング
- ③浸水センサーの広域設置・共同利用

■KPI

①	地域の安全対策への満足度	65%	R8年度
②	加古川駅周辺の都心魅力の満足度	60%	R8年度
③	地域の防災体制への満足度	65%	R8年度

■実証実験の概要・目的

- 【①広域見守り】広域見守りサービスの実装に向けた機能強化・サービススキーム構築
- 【②スマートプランニング】センシング技術による人流・モビリティ情報を活用したスマートプランニングへの展開
- 【③広域防災】浸水センサー(ワンコインセンサー)の広域設置・都市OSを含めた共同利用

■実証実験の内容

①広域見守り

- ✓ R2国交省SC実証において開発した「見守りタグ検知アプリ」のサービスを向上
- ✓ データの管理・活用(個人情報配慮)、各種規約等の検討、都市OS更新



見守りタグ検知アプリ

②スマートプランニング

- ✓ AIカメラ、赤外線センサーによる都市活動把握
- ✓ シェアサイクル利用データ分析
- ✓ 上記の3D都市モデルへの重畳・分析、都市OS更新
- ✓ 公共交通利用促進のための最適な情報提供

③広域防災

- ✓ 市内のワンコインセンサーを増設
- ✓ 近隣自治体に同センサーを設置。共同利用(広域防災サービス)の実装可能性を検証



ワンコインセンサー

■実証実験で得られた成果・知見

- ① ✓ 移動式検知器の1つとして一定の役割を果たせることを確認。広域連絡会にて参加自治体の関心の高さ、スキーム等更なる詳細検討の必要性を確認。
- ② ✓ 日常時と駅前・かわまちづくり・商店街イベント時の人流を分析し、都市モニタリング等への展開に期待。
✓ シェアサイクルの利用の伸びとCO2削減効果を確認。
- ③ ✓ 広域のセンサー情報をダッシュボードで可視化することで、連絡会での意見が活発化し、広域防災の取組の重要性や意識醸成の契機となった。

■今後の予定

- ①③: 11自治体が参加する連絡会を定期開催しつつ、広域での実装に向けたサービススキームを詳細検討、実証も継続し、2024年度中の合意を目標とする。
- ②: センシングデータを活用し、駅前再開発計画や立地適正化計画のモニタリングへの活用・展開を検討。